



白い闇のただ中に
重い鉛錘を垂らせ
たとえ
翳る空の風圧は低く
切り刻まれた肉塊が
信号の赤い色を映すとも
悪夢幻的回転は
喪失の感覚の内にある
おぞましい反指定は
虹の川に沈没する
拒否するのだ
線路下への埋葬を
沈黙の騒がしい合唱を
そして
軋む夢の下に
存在の睡い遊離をして
熱い疼痛の感覚を聴くのだ
今
乳飲み児の鱗割れた叫びは
赤い風車の内にある